

α-SAKE BAR OPENING RECEPTION @ 新風館

日本人だからこそ愛したい味わい、 今宵も、魅惑の水に誘われて。

米国シカゴでは、未だに「サキ」と発音する人が多いながらも日本酒がブームだそうである。もちろん日本でも、居酒屋で隣りあったオネエサンがキュッと冷酒グラスを傾げる姿を目にすることも多くなった。そんな潮流に拍車をかける、京の日本酒イベントが3年目の今年も実現した。日本を代表する酒処・伏見の蔵元とα-STATION、そして新風館の強力コラボによる「α-SAKE BAR」だ。新風館3Fのオープンテラスにて、伏見の名水が生んだ19銘柄の日本酒を、和食・イタリアン・中華…と多彩な新風館7レストランが提供する限定メニューと共に味わえるという何ともオツなこの企画。オープニングレセプションが行われたこの日も、雨上がりのぬるい熱気の中で、ふわっと舞う酒の香が華やかな余韻を漂わせ、訪れた人々の頬を赤く染めていた。京のど真ん中を照らす月を眺め、緩やかにそよぐ涼風を感じつつ、なみなみと注がれた魅惑の水をクイッと一杯。天晴、これぞ日本の夏である。



伏見酒造組合PR委員長を務めておられる(株)北川本家の専務取締役・北川幸宏さん。「微発泡やにごり酒などタイプもいろいろなので一杯ずつ気軽にどうぞ。期間中に5日間行う『蔵元DAY』では無料のテイスティングもやります」

「最初の年は男性ばかりでしたが…、昨年はなんと7割が女性。女性の子カラでもって伏見の酒を全国に発信したいですな」と、新風館・館長の前田さん

昨年のイベントでは、約4300人に6000杯以上の日本酒が飲まれたそう。「若い女性に日本酒が定着してきた昨今、次は団塊世代にももっと飲ませてやりましょうか」と、エフエム京都・代表取締役社長である吉田進さん



この日、司会を務めたα-STATIONのDJ森夏子さん。「男性に気後れすることなく、女性も気軽に日本酒を楽しんでほしいですね。逆に『あら、日本酒も飲めないの?』なんてカッコ可愛く言えちゃうくらいでどうでしょ!」



ワインクーラーの中でキュッと冷やされた日本酒ボトルがズラリ!どれにしようか迷ったら、全19銘柄すべていっときましましょう



「写真はアカンでよ!」と言いつつゴキゲンなのは、左からα-STATIONの杉本さん、日商社の西村さん、新風館の厚地さん。このお三方、「α-SAKE BAR」の影の立て役者なのです



α-STATIONが誇る無類の日本酒好きDJ、佐藤弘樹さん、森夏子さん、慶元まさ美さん、谷口キヨコさんが創作した清水焼の酒器セット。これらは10月24日までの期間中に20杯を制覇した方に抽選でプレゼント!